

「タロウ」に話しかけて



キエリボウシインコの「タロウ」
(須坂市動物園提供)

飼育員 日誌

長野・須坂市動物園



スザッチ

キエリボウシインコ

長野の長い冬が終わり、気温も安定してきたため、キエリボウシインコの「タロウ」の外展示を再開しました。

キエリボウシインコの平均寿命は40〜50年ほどで、「タロウ」も推定40歳以上。野生では中央アメリカのコスタリカなどの暖かい地域に生息しているため寒さが苦手です。冬の間は鳥

インフルエンザという感染症の対策もあり、外での展示をお休みしていました。再開したとはいえ、曇りや雨風の強い日は展示をお休みしたり、時間を短縮したりします。

ところで、インコやオウムを見ると、人の言葉をマネするか話しかけたくなりますよね？ タロウも以前は「タロウちゃん」とおしゃべりしていたのですが、いつしか人の言葉はマネしなくなりました。ですが、人に見られたり話しかけられたりするのには好きなようで、私もたくさん話しかけた。タロウとの仲を深めました。相づちを打ってくれることもあります。

タロウに会えるかはタイミング次第ですが、見かけた際には話しかけてみてくださいね！

(飼育ふれあい係 谷川 香)